

感謝の気持ちを込めて

川 田 園 子

大学四年間で湯浅先生に名前を呼んでもらえるようになったのは三年生になってからでした。語学系のゼミを選択するにあたり、湯浅先生のゼミにお世話になることを決

めました。実は先生の授業を受けたことがなく、「どんな先生かな：」「ちゃんと論文を書き上げられるかな：」「卒業できるかな・・・」と不安もありました。そんな私に必修授業で湯浅先生が担当だったという友人が「とても優しい先生だからきつと色々と力になってくださるよ！」と、言ってくれて少し不安が和らぎました。

授業を受けてみると本当にその通りでした。授業でも、ゼミでもとても親身になってくださり、息詰まっているとときには何度も相談ののってくださいました。先生からすれば、卒業させるためのだから当たり前のことなのかもしれ

れません。しかし、私たちゼミ生からすればその言動が何より嬉しく、心強かったのです。

私はゼミ長も務めたこともあり、先生からほかのゼミ生の様子をきかれたり、少し心配な様子の人がいると、気にしてあげてほしいといわれていました。本当に私たちひとりひとりのことを考え、心配してくださっているのだと、その優しさに何度も心があたたかくなりました。

ゼミ合宿では、ゼミ長として合宿前から準備をしたり、自身の卒業論文の準備をしたり、結構手一杯だったので、正直漠然としています。しかし、そのゼミ合宿で唯一鮮明に覚えていることがあります。湯浅先生の笑顔です。

夕食後、アイスが食べたくなり、近くのコンビニへ買い出しに行くことになりました。先生にも何か必要なものが

あるかきくと「ジャイアントコーン」と言われました。

買い終わり、宿舍へ戻ってアイスを食べていると先生が「僕のジャイアントコーンは？」とおっしゃるので取ってこようとするご自分で取りに行かれるとのことだったので「冷凍庫に入っています。」と伝えました。先生が取りに行かれた後すぐに笑い声がかきこえたので、何事かと思うと「ジャイアントコーンってこれかあ！だから冷凍庫なのか！」と大笑いされていました。先生がおっしゃっていた「ジャイアントコーン」はアイスではなく、おつまみでもよく知られている穀物の「ジャイアントコーン」だったのです。この時のアイスを持って笑ってらっしゃる先生の笑顔がたまらなく、思わずパシヤリ。今でもこの笑顔を見ると元気になります。

語学について題材にしている私たちに、このタイミングでこんな勘違いがあるなんて改めて言葉って面白いなと思つた出来事だったこともあり、より印象に残っています。卒業後も変わらず連絡をとってくださっています。一緒に食事をした際は、国文学科ならではのことや、プライベートのことなど、先生のお話いつも楽しませてもらっています。時にはうまいかないことや駄目な部分を吐露する、そんな私でも褒めてくださったり、アドバイスをくださいます。まだまだ未熟でダメだなと思うところが多いですが、

そんな先生の気持ちに応えようと頑張ろうと思う自分がいまです。今はコロナでなかなかお会いするのが難しい状況ですが、落ちついたらまた先生のお話をきいて、先生の笑顔に元気をもらえたらと願っております。

今年度をもってご退職なさること、大変お疲れ様でした。寂しく思いますが、先生と過ごした大学生活は絶対になくなることのない思い出です。先生から学んだこと、いただいた言葉、大切にいたします。たくさんご指導いただき本当にありがとうございます。

今後は、実践学園中学校・高等学校の校長にご就任のこと、益々のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

(かわだ そのこ・平成28年度卒業生)



「ジャイアントコーン」違いに
笑顔の湯浅先生